



元気アップみのり

2014年(平成26年)

あきづき号

発行 NPO 法人元気アップみのり
住所 〒678-0052 兵庫県相生市大島町 3-4
電話 0791-22-1330 Fax 0791-22-1347

作業所に新しいワゴン車 がお目見え!

「このたび神戸やまぶき財団(註参照)から送迎用車両の助成金をいただくことになり、早速その資金でホンダのステップワゴン(2000cc)の新車を購入しました。

作業所の車といえば、これまではあの軽四のバンが一台だけ。納品にバザーに送迎にと大活躍でしたが、さすがにもう限界。もともとが貨物専用車で、送迎には無理がありましたので「何とか送迎用のワゴン車を!」というのが悲願でした。

それで昨年暮れ、たまたま助成金の公募をされていた神戸やまぶき財団に送迎用車両の助成を申請し、それを受けて財団から4月に事務局の方が作業所の視察にも来られ、5月の末に結果の通知をいただきました。うちの作業所にとってはかつてない大口の助成金で感謝感激です。

購入したホンダのステップワゴンは8人乗りで送迎用としても充分ですが、シートを折りたたむと運転席の後ろがフラットな荷台になるので、荷物の多いバザー出店の時などは資材運搬用としても充分活用でき、本当に便利な多目的車です。乗り心地も軽四のバンに比べれば抜群です。これから大いに活躍してもらいましょう。



【註】神戸やまぶき財団…医療機器メーカー・スモックスや音響機器メーカー・T.O.A.創業者の中谷忠子氏からの出捐金により平成24年に設立された公益財団法人で、障害者をはじめ要保護児童、難病の小児患者及びその家族をサポートする施設・団体に対する支援を目的としている。事務所は神戸市須磨区にあり、播州信用金庫の理事長でもある和田長平氏が理事長をしている。平成24年度(第1回)の助成金支給総額は73,380千円とのこと。(H.P.等より)

「このたび元気アップみのり家族会では「車椅子で自活実践中!」と題する講演会を8月30日、相生市総合福祉会館にて開催いたしました。

講演会では元気アップみのり関係者はじめ相生市及び近隣市町から一般市民や施設関係者約50名程の方々が出席されました。

講師の内海理子さん(たつの市在住は、脳性麻痺と両股関節脱臼という二重苦の障害を負いながら、西播磨リハビリテーションセンターでのリハビリを経て、家族からの自立を志し現在マンションで自活されていますが、講演ではそこに至るまでの心の葛藤や様々の障害を克服した経験を話していただきました。そして現在は周囲の人たちの支援に感謝しながら、力強く生活されている内海さんの姿に参加者は深い感銘と元気を与えられ、中には涙ぐむ人も見受けられました。

参加者には高次脳機能障害家族会の方もおられ、終了後には講師と懇談をされるなど、多くの参加者にとって充実した一日であったと思います。



参加者の質問に笑顔で答える内海さん

内海理子さんの講演会開催!

うつみ みちこ

8月30日(土)福祉会館、約50名が参加

「ウイズin西はりま」の 体験交流会に参加しました。

8月29日(金)「ウイズin西はりま」の体験交流会が、テクノポリスのひょうご環境体験館(午前の部)とふれあいスポーツ交流館(午後の部)で行われ、私たち元気アップみのりも他の施設の人たちとともに参加し、環境体験館では、展示等を見学した他、草木染めのエコバッグ作りを体験しました。

残念ながら午後は伊勢製菓さんのお仕事がありましたので、スポーツ交流会には参加できませんでしたが、楽しい体験ができました。



何でもすぐ熱中してしまう人たちです

【註】ウイズin西はりま…障害者の雇用環境改善や授産施設・小規模作業所の事業発展を図ることを目的に平成18年6月に設立された連絡協議会で現在、西播磨圏域にある24の障害者施設が参加しています。

特別寄稿

「アンダンテ-稲の旋律-」を観て



7月29日、作業所でDVDの鑑賞会をする事になり、皆で「アンダンテ稲の旋律」という映画を観ました。

題名のアンダンテとは、中学のとき音楽の授業で学んだ“歩くような速さで”ということ覚えています。主人公は引きこもりの女性です。ある日ペットボトルの中にSOSと書いた手紙を入れて田んぼへ放ちます。それを拾った田んぼの持ち主の青年と文通が始まり、やがて行き来するようになります。

小さい頃ビンの中に手紙を入れて流す話を聞いたことがあります、ペットボトルというのが現代風だと思います。また主人公の女性と田んぼの青年が結ばれるのかな、と

たら主人公が連れてきた職場の先輩の女性と結ばれることになったのは意外でした。私が感動したのは、最後の方で主人公が得意のピアノを田んぼで弾いた時、主人公のお母さんが「あなたは私の誇りよ」といい、主人公は「私はお母さんの子よ」という場面です。私にはなかなか言えないことだと思いました。

なぜかという、私は作業所に来て5年程は、ほとんどお弁当も詰めてもらい、ろくに家の手伝いもしない状態だったからです。ずっと前に母が言ってましたが、母は私が20歳になって初めて座ってテレビを見たそうです。私の父は私が幼い時に病気で亡くなり、母は苦勞のしごうでしたから、これからでも極力心配をかけないように心がけようと思います。そして主人公のピアノのように私も何か自分の得意なことを見つけられたらと思います。 矢野さとみ

今年の夏も“そうめん流し”

今年は少し改良を加え、氷を入れたポリタンクをスタート台に乗せ、タンクに付いている小さな蛇口から氷で冷えた水を流そうと考えました。蛇口からの水圧が少し弱いので、雨樋はUの字に曲げず直線コースにしました。結果は上々！と言いたいところですが、タンクの中の氷で上から入ってくる水道水が冷える前に水が出てしまい、思うようには冷えませんでした。薬味に作業所で育てた青ネギをいっぱい入れ、いろいろな具をトッピングしたりして、11人で兵家連から購入した島原そうめん26把をたいらげました。



羅漢の里で“野外研修”！

「野外研修」と称して羅漢の里にバーベキューに行くのも毎年恒例ですが、今年はピッカピッカのステップワゴンに乗ってCDで音楽を鳴らしながら出発！。8月5日でもう夏休みに入ったせいか、川遊びや合宿に来てる子どもたちで、ふだんは寂しい羅漢の里も結構賑やかでした。着いたら早速に炭火を起こして、牛ロース、豚ばら、かしわに青唐辛子、玉ねぎ、トウモロコシ等々、最後は“焼きそば”で締めました。



看護師になったもと 実習生の方と再会！

昨年の話ですが、私の妻が播磨病院に入院したある日、見回りに来た看護師さんが、「私、三木さんにお世話になりました。」と彼女。「えっ？どこで？」と小生。

「私、相生市立看護学校生として元気アップみのり作業所に行かせていただいた者です。」と言われ、驚きました。数年前の初々しい学生さんが、今は立派な看護師として第一線で活躍されてる姿に感動いたしました。

三木 豊